

新規採用・削除医薬品等通知

薬剤部 医薬品情報管理係

新規採用医薬品通知

(薬品名)	アセリオ静注液 1000 mg	劇	市販直後調査 平成 25 年 11 月～平成 26 年 5 月
(英名)	acelio Intravenous Injection 1000mg		
(規格・含有量)	1 バイアル 100mL 中(日局)アセトアミノフェンとして 1000mg を含有		
(一般名)	アセトアミノフェン		
(メーカー名)	テルモ		
【薬価収載日】	2013 年 8 月		
【薬価】	1 瓶:332 円		
【薬効コード】	871141		
【薬効分類名】	解熱鎮痛剤		
効能・効果	経口製剤及び坐剤の投与が困難な場合における疼痛及び発熱		
用法・用量	<p>下記のとおり本剤を 15 分かけて静脈内投与すること。</p> <p><成人における疼痛></p> <p>通常、成人にはアセトアミノフェンとして、1 回 300～1000mg を 15 分かけて静脈内投与し、投与間隔は 4～6 時間以上とする。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1 日総量として 4000mg を限度とする。</p> <p>ただし、体重 50kg 未満の成人にはアセトアミノフェンとして、体重 1kg あたり 1 回 15mg を上限として静脈内投与し、投与間隔は 4～6 時間以上とする。1 日総量として 60mg/kg を限度とする。</p> <p><成人における発熱></p> <p>通常、成人にはアセトアミノフェンとして、1 回 300～500mg を 15 分かけて静脈内投与し、投与間隔は 4～6 時間以上とする。なお、年齢、症状により適宜増減するが、原則として 1 日 2 回までとし、1 日最大 1500mg を限度とする。</p> <p><2 歳以上の幼児及び小児における疼痛及び発熱></p> <p>通常、2 歳以上の幼児及び小児にはアセトアミノフェンとして、体重 1kg あたり 1 回 10～15mg を 15 分かけて静脈内投与し、投与間隔は 4～6 時間以上とする。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1 日総量として 60mg/kg を限度とする。ただし、成人の用量を超えない。</p> <p><乳児及び 2 歳未満の幼児における疼痛及び発熱></p> <p>通常、乳児及び 2 歳未満の幼児にはアセトアミノフェンとして、体重 1kg あたり 1 回 7.5mg を 15 分かけて静脈内投与し、投与間隔は 4～6 時間以上とする。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1 日総量として 30mg/kg を限度とする。</p>		
警告	<p>①本剤により重篤な肝障害が発現するおそれがあることに注意し、1 日総量 1500mg を超す高用量で長期投与する場合には、定期的に肝機能等を確認するなど慎重に投与すること。</p> <p>②本剤とアセトアミノフェンを含む他の薬剤(一般用医薬品を含む)との併用により、アセトアミノフェンの過量投与による重篤な肝障害が発現するおそれがあることから、これらの薬剤との併用を避けること。</p>		
禁忌	<p>①重篤な肝障害のある患者[重篤な転帰をとるおそれがある。]</p> <p>②本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者</p> <p>③消化性潰瘍のある患者[症状が悪化するおそれがある。]</p> <p>④重篤な血液の異常のある患者[重篤な転帰をとるおそれがある。]</p> <p>⑤重篤な腎障害のある患者[重篤な転帰をとるおそれがある。]</p> <p>⑥重篤な心機能不全のある患者[循環系のバランスが損なわれ、心不全が増悪するおそれがある。]</p> <p>⑦アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者[アスピリン喘息の発症にプロスタグランジン合成阻害作用が関与していると考えられる。]</p>		

相互作用	本剤作用減弱 カルバマゼピン、フェノバルビタール、フェニトイン、プリミドン、リファンピシン 本剤副作用増強 アルコール(飲酒)、イソニアジド 他剤作用増強 クマリン系抗凝血剤(ワルファリン)
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー、中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis:TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、急性汎発性発疹性膿疱症、喘息発作の誘発、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、顆粒球減少症、間質性肺炎、間質性腎炎、急性腎不全 その他の副作用 チアノーゼ、血小板減少、悪心・嘔吐、食欲不振、過敏症 等

(薬品名)	ジプレキサ筋注用 10 mg	劇
(英名)	Zyprexa Rapid Acting Intra-Muscular Injection	
(規格・含有量)	1バイアル中オランザピンとして11.0mgを含有	
(一般名)	オランザピン	
(メーカー名)	イーライリリー	
【薬価収載日】	2012年11月	
【薬価】	1瓶:2,067円	
【薬効コード】	871179	
【薬効分類名】	抗精神病薬	
効能・効果	統合失調症における精神運動興奮	
用法・用量	通常、成人にはオランザピンとして1回10mgを筋肉内注射する。 効果不十分な場合には、1回10mgまでを追加投与できるが、前回の投与から2時間以上あけること。また、投与回数は、追加投与を含め1日2回までとすること。年齢、症状に応じて減量を考慮すること。	
警告	①著しい血糖値の上昇から、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡等の重大な副作用が発現し、死亡に至る場合があるので、投与前に血糖値の測定等を行い、糖尿病又はその既往のある患者あるいはその危険因子を有する患者には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合以外は投与しないこと。また、投与前に血糖値の測定等が困難な場合には、投与後に血糖値をモニタリングするなど観察を十分に行うこと。 ②投与にあたっては、可能な限り投与前に、上記副作用が発現する可能性があることを、患者及びその家族に十分に説明すること。また、口渇、多飲、多尿、頻尿等の異常に注意し、このような症状があらわれた場合には、直ちに医師の診察を受けるよう、指導すること。	
禁忌	①昏睡状態の患者[昏睡状態を悪化させるおそれがある。] ②バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者[中枢神経抑制作用が増強される。] ③本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ④アドレナリンを投与中の患者	
相互作用	本剤作用増強 フルボキサミン、シプロフロキサシン塩酸塩 本剤及び他剤作用増強 非経口ベンゾジアゼピン製剤(フルニトラゼパム、ジアゼパム、ミダゾラム等)、中枢神経抑制剤(バルビツール酸誘導体、経口ベンゾジアゼピン製剤等)、アルコール 本剤及び他剤副作用増強 抗コリン作用を有する薬剤(抗コリン性抗パーキンソン剤、フェノチアジン系化合物、三環系抗うつ剤等) 本剤作用減弱 カルバマゼピン、オメプラゾール、リファンピシン、喫煙 他剤作用減弱 ドパミン作動薬(レボドパ製剤)	
副作用	重大な副作用 高血糖、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡、低血糖、悪性症候群(Syndrome malin)、肝機能障害、黄疸、痙攣、遅発性ジスキネジア、横紋筋融解症、麻痺性イレウス、無顆粒球症、白血球減少、肺塞栓症、深部静脈血栓症 その他の副作用 傾眠、浮動性めまい、低血圧 頻脈、口渇 等	

(薬品名)	ボンビバ静注 1mg シリンジ	劇 市販直後調査 平成 25 年 8 月～平成 26 年 2 月
(英名)	Bonviva	
(規格・含有量)	1 シリンジ (1mL) 中イバンドロン酸ナトリウム水和物 1.125mg (イバンドロン酸として 1mg) を含有	
(一般名)	イバンドロン酸ナトリウム水和物	
(メーカー名)	中外	
【薬価収載日】	2013 年 8 月	
【薬価】	1 筒:4,918 円	
【薬効コード】	873999	
【薬効分類名】	骨粗鬆症治療剤	
効能・効果	骨粗鬆症	
用法・用量	通常、成人にはイバンドロン酸として1mgを1カ月に1回、静脈内投与する。	
禁忌	①本剤の成分又は他のビスホスホネート系薬剤に対し過敏症の既往歴のある患者 ②低カルシウム血症の患者〔血清カルシウム値が低下し、低カルシウム血症の症状が悪化するおそれがある〕 ③妊婦又は妊娠している可能性のある婦人	
副作用	重大な副作用 アナフィラキシーショック、アナフィラキシー反応、顎骨壊死・顎骨骨髓炎、大腿骨転子下及び近位大腿骨骨幹部の非定型骨折 重大な副作用(類薬) 低カルシウム血症 その他の副作用 胃炎、頭痛、背部痛、筋肉痛、倦怠感 等	

削除医薬品通知

●1月6日より

ボナロン点滴静注バッグ 900μ g/100mL	特薬に変更
ロートエキス散「ホエイ」10%	削除
レキップ錠1mg	特薬に変更

医薬品変更通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
オーキシス 9μ g タービュヘイラー-60 吸入	オーキシス 9μ g タービュヘイラー-28 吸入

剤型追加通知

今回採用医薬品

●1月6日より

リーバクト配合経口ゼリー

適応追加通知

イナビル吸入粉末剤 20mg	<p>【効能・効果】 A 型又は B 型インフルエンザウイルス感染症の治療及びその予防</p> <p>【用法・用量】</p> <p>1. 治療に用いる場合 成人：ラニナミビルオクタン酸エステルとして 40mg を単回吸入投与する。 小児：10 歳未満の場合、ラニナミビルオクタン酸エステルとして 20mg を単回吸入投与する。10 歳以上の場合、ラニナミビルオクタン酸エステルとして 40mg を単回吸入投与する。</p> <p>2. 予防に用いる場合 成人及び 10 歳以上の小児：ラニナミビルオクタン酸エステルとして 20mg を 1 日 1 回、2 日間吸入投与する。</p>
エルプラット点滴静注液 50mg 100mg	<p>【効能・効果】 治療切除不能な肺癌</p> <p>【用法・用量】</p> <p>1. 治療切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌及び結腸癌における術後補助化学療法には A 法又は B 法を、治療切除不能な肺癌には A 法を使用する。なお、患者の状態により適宜減量する。</p> <p>A 法：他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人にはオキサリプラチンとして 85mg /m²(体表面積) を 1 日 1 回静脈内に 2 時間で点滴投与し、少なくとも 13 日間休薬する。これを 1 サイクルとして投与を繰り返す。</p>
テネリア錠 20mg	<p>【効能・効果】 2 型糖尿病</p>
メロペン点滴用バイアル 0.5g	<p>【用法・用量】</p> <p>(1) 一般感染症</p> <p>○化膿性髄膜炎以外の一般感染症 通常、成人にはメロペネムとして、1 日 0.5～1g(力価)を 2～3 回に分割し、30 分以上かけて点滴静注する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、1 回 1g(力価)を上限として、1 日 3g(力価)まで増量することができる。</p> <p>通常、小児にはメロペネムとして、1 日 30～60mg(力価)/kg を 3 回に分割し、30 分以上かけて点滴静注する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、1 日 120mg(力価)/kg まで増量することができる。ただし、成人における 1 日最大用量 3g(力価)を超えないこととする。</p> <p>○化膿性髄膜炎 通常、成人にはメロペネムとして、1 日 6g(力価)を 3 回に分割し、30 分以上かけて点滴静注する。なお、年齢・症状に応じて適宜減量する。</p> <p>通常、小児にはメロペネムとして、1 日 120mg(力価)/kg を 3 回に分割し、30 分以上かけて点滴静注する。なお、年齢・症状に応じて適宜減量する。ただし、成人における 1 日用量 6g(力価)を超えないこととする。</p>
ワンデュロパッチ 0.84mg 1.7mg 5mg	<p>【効能・効果】 非オピオイド鎮痛剤及び弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記における鎮痛(ただし、他のオピオイド鎮痛剤から切り替えて使用する場合に限る。) 中等度から高度の疼痛を伴う各種癌 中等度から高度の慢性疼痛</p>